

# スケジュール

## 第1日 7月5日(土)

	521	522	K402	K403	K404
セッション 1 10:00-11:30			<大学院生パネル> コミュニケーション学 に萌芽する未来 池田	社会心理と コミュニケーション 宮原	
支部会 11:40-12:10	北海道 (K402), 東北 (K403), 関東 (521) 中部 (K404), 関西 (522) 中国四国 (K405), 九州 (K407)				
12:10-13:00	昼食				
セッション 2 13:00-14:30			<パネル> レトリック研究会 丸山	演劇と教育 蔵元	対人関係 川内
14:40-15:10	<b>会場: 大講義室 (511)</b> 開会式 (司会:五十嵐 紀子)				
15:10-15:40	総会 (司会:前田 尚子)				
15:50-16:50	基調講演 (内野 儀 『パフォーマンス研究の現在 - パフォーマティビティ・身体・認知』)				
17:00-18:30	シンポジウム (演劇とコミュニケーション学 司会:板場 良久)				
18:40-20:30	懇親会 (コミュニケーションプラザ 公流ホール)				

## 第2日 7月6日(日)

	521	522	K402	K403	K404
セッション 3 9:00-10:30			<パネル> コミュニケーション教育 松本 (茂)	レトリックと演劇 畑山	言語表現と修辞法 伊佐
特別セッション 10:40-12:10	異文化(間) トレーニングの 歴史・現状・未来 荒木, 末田, 守崎	櫻村愛子先生への インタビュー 青沼, 北本, 柿田			
12:10-13:00	昼食				
セッション 4 13:00-14:30			支部大会パネル 中林	(脱)国家 桜木	「異」文化と 「外国」人 鄭
セッション 5 14:40-16:10			リーダーズ シアター (開催教室 K508) 中西	テクノロジーと メディア 松本 (健)	教育現場 本郷
16:20-16:30	<b>会場:大講義室 (511)</b> 閉会式 (司会:村井 佳世子)				

# Program Timetable

## Day 1 - July 5 ( Sat )

	521	522	K402	K403	K404
Session 1 10:00-11:30			- Student Panel - Young Talents for Communication Studies Ikeda	Social Psychology & Communication Miyahara	
Chapter Meetings 11:40-12:10	Hokkaido (K402), Tohoku (K403), Kanto (521) Chubu (K404), Kansai (522) Chugoku-Shikoku (K405), Kyushu (K407)				
12:10-13:00	Lunch				
Session 2 13:00-14:30			- Panel Session - Division of Rhetorical Studies Maruyama	Theater & Pedagogy Kuramoto	Interpersonal Relations Kawauchi
14:40-15:10	<b>Lecture Hall (511)</b> Opening Ceremony (MC: Noriko Igarashi)				
15:10-15:40	General Assembly (MC: Naoko Maeda)				
15:50-16:50	Keynote Address by Tadashi Uchino (MC: Yoshihisa Itaba)				
17:00-18:30	Symposium ("Communication Studies and Dramaturgy" MC: Yoshihisa Itaba)				
18:40-20:30	Convention Dinner @Koryu Hall, Communication Plaza				

## Day 2 - July 6 ( Sun )

	521	522	K402	K403	K404
Session 3 9:00-10:30			- Panel Session Division of Communication Education S. Matsumoto	Rhetoric & Performance Studies Hatayama	Language, Elocution & Style Isa
Special Sessions 10:40-12:10	Session on Intercultural Training Araki, Sueda, Morisaki	Interview with Prof. Aiko Kashimura Aonuma, Kitamoto, Kakita			
12:10-13:00	Lunch				
Session 4 13:00-14:30			Chapter-proposed Sessions Nakabayashi	Post-Nation Sakuragi	Intercultural Relations Wei
Session 5 14:40-16:10			Readers Theater @ K508 Nakanishi	Technology & Media K. Matsumoto	Teaching in Contexts Hongo
16:20-16:30	Closing Ceremony (MC: Kayoko Murai) @ Lecture Hall (511)				

## 基 調 講 演 Keynote Address

### パフォーマンス研究の現在

#### — パフォーマティヴィティ・身体・認知 —

内野 儀

東京大学大学院総合文化研究科教授・表象文化論専攻

「テキストからパフォーマンスへ」、「動かないものから動くものへ」、「作品からプロセスへ」……いわゆるポスト構造主義批評台頭以降の、人文学における学問対象および研究方法の変化は、還元的であることを恐れずにいえば、こうした「かけ声」とともにあったと思われる。それが何らかの成果を世界的にもたらす前に、〈社会学の勝利〉とでも呼べる事態も訪れている現在、アメリカ合衆国発という明らかな出自をもつパフォーマンス・スタディーズ（以下、PS と表記）という「学際的」を標榜する学問分野は、今、どうなっているのか？

この講演では、演劇学とコミュニケーション学という PS の起源にあるとされるふたつの学から PS が発生・展開してきた 1980 年前後のアメリカ合衆国における学問状況をまずは簡単に振り返る。次に、PS の創始者のひとりとしてされるニューヨーク大学のリチャード・シェクナーによる PS の教科書 *Performance Studies: An Introduction* (London: Routledge, 2002)、PS とはやや距離を取る形で「パフォーマンス」を鍵概念とする 4 巻本の論文集 Philip Auslander (ed.), *Performance: Critical Concepts in Literary and Cultural Studies* (London: Routledge, 2003) 等を参照にしながら、PS のこれまでの研究成果を、「パフォーマンス」「パフォーマティヴィティ」「身体」といった関連する重要な分析／記述概念の広がりを見わたすことで明らかにしたい。さらに、PS の現在の研究動向の一つとして、PS の学術誌である「TDR」誌 (The MIT Press) における「ダンスと哲学」という最近の特集を取り上げ、PS としてのダンス研究における認知科学的知見の重要性／有用性について、最後は言及できればと考えている。

#### 【経歴】

内野 儀 (うちの・ただし) Tadashi UCHINO

1957 年京都生れ。東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了 (1984 年、アメリカ文学)。学術博士 (2002 年、表象文化論)。現在、東京大学大学院総合文化研究科教授 (表象文化論)。専門は日米現代演劇、パフォーマンス研究。著書に『メロドラマの逆襲——〈私演劇〉の 80 年代』(勁草書房、1996 年)、『メロドラマからパフォーマンスへ——20 世紀アメリカ演劇論』(東京大学出版会、2001 年)、『知の劇場、演劇の知』(共著、ペリかん社、2005)、近刊に *Crucible Bodies: Postwar Japanese Performance from Brecht to the Millennium* (Seagull Press, 2008) がある。「アメリカ文学研究」、「アメリカ研究」等の日本のアメリカ関係学会誌の編集委員や神奈川芸術文化財団理事、セゾン文化財団評議員などもつとめている。2007 年から「舞台芸術」(京都造形芸術大学) 編集委員、1998 年からパフォーマンス研究の国際的学術誌「TDR」(The MIT Press) の Contributing Editor。

## シンポジウム Symposium

### コミュニケーション学と演劇

司会： 板場 良久 (獨協大学)  
シンポジスト： 内野 儀 (東京大学)  
近江 誠 (南山短期大学)  
師岡 淳也 (神奈川大学)

内野先生の基調講演を受け、大会テーマである「コミュニケーション学と演劇」の交差点の現在と将来について、講演者と共に討議していく。コミュニケーション学において、近年演劇・オーラル・インタープリテーションの流れをくむパフォーマンス研究が関心を集めているが、内野先生の専門領域である「演劇研究と人類学の出会いによって生まれたパフォーマンス研究」(高橋『身体化される知』54頁)が十分に受容・理解されているとは言い難い。しかしながら、コミュニケーション学が、歴史的に演劇と密接に関わっていたのは周知の通りである。また、現在のコミュニケーション学は、「言語」や「話者の意図」に限定されず、何かしらの働きを持つ表象や行為にまで研究範囲を広げており、オーラル・ヒストリー、エイズ・メモリアル・キルト、博物館、ボディー・アートなど、パフォーマンス研究と分析対象が重なり合う部分も多い。さらに、発話(者、場面)のくいま、ここ>という問題が、古代ギリシャよりコミュニケーション学者(レトリシャン)の大きな関心事であったことに鑑みても、日米の現代演劇に関する内野先生の精緻な研究と鋭利な批評が、コミュニケーション学とパフォーマンス研究の現在の接点を探り、当学会/当該学術分野の今後の展望を考える上で示唆するところは大きい。本シンポジウムでは、内野先生の卓越した知見を拝聴しつつ、両学問分野における表象やテキストといった用語の位置づけ、批評の方法や理論のあり方、そして研究、教育、実践の関係などについて、対話をすすめていく。また、リチャード・シェクナーが「<sup>イン</sup>「間」領域的、<sub>イン・ビトウィーン</sub>中「間」領域的な存在」(『パフォーマンス研究』6頁)と形容したパフォーマンス研究の現代的状況に対する内野先生のマッピングを契機として、本シンポジウムが学問分野としてのコミュニケーション学のあり方に新たな視座を提供し、議論を深める場となることも期待している。

## 特別セッション1 Special Session 1

### 異文化(間)トレーニングの歴史・現状・未来

シンポジスト： 荒木 晶子 (桜美林大学)  
シンポジスト： 末田 清子 (青山学院大学)  
シンポジスト(兼司会)： 守崎 誠一 (神戸市外国語大学)

異文化(間)トレーニングは、「個人が自分の文化の境界を越えて他の文化の人と円滑にコミュニケーションを行う能力を養うためのプログラム」であり、日本でも一般企業や教育現場で1970年代後半から実施され

てきた。

本シンポジウムでは、日本におけるこれまでの異文化（間）トレーニングの歴史を概観し、現状を把握し、今後のあり方について検討していく。とくに以下の3点について問題提起したい。(1)異文化（間）トレーニングの「効果」をどのようにみたらよいのだろうか。実証主義(positivism)の枠組みでとらえるときと、脱実証主義(post-positivism)の枠組みでとらえるときとどのような違いがあるのだろうか。(2)「異文化」が示す範囲は極めて広く、国籍、民族、ジェンダーのみならず経験のちがいがらくる「異文化」もある。今後、異文化（間）トレーニングは社会のニーズにどのように対応していくべきであろうか。(3)異文化（間）トレーニングの実践と日常生活における個人のあり方にどのように整合性をつけていくべきであろうか。

限られた時間のなかで、今後の異文化（間）トレーニングのありかたについて検討したい。

7月6日(日) Sunday July 6 10:40-12:10 @ 522

## 特別セッション2 Special Session 2

### 樫村愛子先生へのインタビュー — コミュニケーション研究の可能性 —

司会： 柿田 秀樹 (獨協大学)  
スピーカー： 樫村 愛子 (愛知大学)  
インタビュアー： 青沼 智 (神田外語大学)  
北本 晃治 (帝塚山大学)

これまでコミュニケーション研究の新たな可能性を模索してきた学術局セッションであるが、今回は精神分析と社会学をご専門とする樫村愛子先生をお迎えして、コミュニケーション研究の更なる可能性を模索していく。樫村先生は、『ネオリベラリズムの精神分析』（光文社、2007）や『ラカン派社会学入門』（世織書房、1998）などの著書や、朝日新聞でのネット社会についての発言で知られており、コミュニケーションの現代的問題に鋭く介入する発言を続けておられる。とりわけ現在、新自由主義において展開されている「コミュニケーション社会」と呼ばれる「コミュニケーション至上主義」のイデオロギー的側面を、社会学と精神分析理論の視点から批判されている。コミュニケーションを（個人の）能力の問題に還元する現代がもたらした帰結にいかにして批判的に介入できるのか、今回もインタビューを通じて、樫村先生の卓越した知見とその可能性の中心を提示できるよう試みたい。今後の学術的なコミュニケーション学とその教育の在り方について、これまで本学会が培ってきた知識が学問領域を越えてその重要性を再認識されるべく、此処でコミュニケーションを学術的に研究するとはいかなる姿勢であるのかを再検討し、更なる理論的発展の可能性を模索していく。コミュニケーション研究が領域横断的の学問である以上、他分野の理論的知見がいかに伝統を再構築していく可能性を秘めているのかを、樫村先生の卓見と英知が与えてくれるであろうと大いに期待するところである。

7月5日(土) Saturday July 5 11:40-12:10

## 支部会議 Chapter Meetings

各支部でミーティングを行います。部屋割りについてはスケジュール表をお確かめ下さい。

Chapter meetings will be held in the assigned rooms, as listed on the schedule of events.

7月5日(土) Saturday July 5 14:40-15:10 @大講義室 511 (Lecture Hall)

## 開会式 Opening Ceremony

司会： 五十嵐 紀子

開会の辞： 近江 誠 (南山短期大学・日本コミュニケーション学会 会長)

挨拶： 水谷 修 (名古屋外国語大学 学長)

7月5日(土) Saturday July 5 15:10-15:40 @大講義室 511 (Lecture Hall)

## 総会 General Assembly

司会： 前田 尚子

7月6日(日) Sunday July 6 16:20-16:30 @大講義室 511 (Lecture Hall)

## 閉会式 Closing Ceremony

司会： 村井 佳世子

開会の辞： 近江 誠 (南山短期大学・日本コミュニケーション学会 会長)

### ◆ 昼食のご案内

学生食堂(アトリウム食堂)は7月5日(土)13:30までご利用いただけます。尚、日曜日は営業していません。

### ◆ 懇親会のご案内

会場：コミュニケーションプラザ 交流ホール

会費：¥5,000

申し込み方法：事前申し込みについては表紙の裏の案内をご覧ください。当日申し込みも可能ですが、人数が限定されます。受付にてお申し込み下さい。

## 書籍・教育機材の展示

5号館1階ホワイエにて、各種の展示を行っています。ご自由にご覧ください。

(財)日本英語検定協会

A variety of educational materials are to be displayed at Building #5, 1<sup>th</sup> Floor, "the Foyer".

7月5日 (土) Saturday July 5

受付 9:30 ~ Registration commencing at 9:30

時間	教室	プログラム Session
10:00   11:30	K402	<b>セッション 1</b> <b>大学院生パネル</b> <b>Student Panel</b> 「コミュニケーション学に萌芽する未来」 司会：池田 理知子 (国際基督教大学) レスポンデント：臼井 直人 (神田外語大学) 1. コミュニケーションの場「gaijin」が映し出す日本人と白人の相互関係 坂田 史 (西南学院大学) 2. <自由>における<責任> — アメリカ同時多発テロ事件以降におけるイデオグラフ分析 — 丸山 健太 (獨協大学)
	K403	<b>社会心理とコミュニケーション</b> <b>Social Psychology &amp; Communication</b> 司会：宮原 哲 (西南学院大学) 1. 対人葛藤対処方略と言語表出との関連 — 評定尺度法と自由記述法との比較 — 森泉 哲 (南山短期大学) 2. コミュニケーション能力とコミュニケーションストレス対処の関連 町田 佳世子 (札幌市立大学) 3. Trait and State Approaches to Explaining Argument Features Shinobu Suzuki (Hokkaido University)
11:40   12:10	K402	<b>支部会議</b> <b>Regional Chapter Meetings</b> 北海道支部 Hokkaido 東北支部 Tohoku 関東支部 Kanto 中部支部 Chubu 関西支部 Kansai 中国四国支部 Chugoku & Shikoku 九州支部 Kyushu
	K403	
	521	
	K404	
	522	
	K405	
	K407	
<b>昼食 Lunch</b>		
13:00   14:30	K402	<b>セッション 2</b> <b>パネル 1 レトリック研究会</b> <b>Japan Society for Rhetorical Studies</b> 「「ドラマティズム」・「ガバメンタリティ」・「コミュニケーション労働」 — コミュニケーション学におけるレトリカルな術後概念のさらなる普及に向けて —」 司会：丸山 真純 (長崎大学) 1. ドラマティズムの観点からみた言説実践の概念 中西 満貴典 (岐阜市立女子短期大学) 2. 避難所/収容所におけるコミュニケーション労働 — 映画『ドッグヴィル』読解 — 菅野 遼 (獨協大学) 3. Governing a Population: Regulatory Power of Culture and Public Discourse Naoki Kambe (Kanda University of International Studies)
	K403	<b>演劇と教育</b> <b>Theater &amp; Pedagogy</b> 司会：蔵元 禮子 (青森公立大学) 1. Context and Conflict in Oral Communication Classrooms Miho Moody (Chubu University) 2. English through Drama — The Meaning of Drama in Language / Communication Education — Kaori Noro (Tamagawa University) 3. カリキュラムデザインによるシステムとドラマの共存 — メッセージ分析の教育方法論への応用 — 牧野 由香里 (関西大学)

時間	教室	プログラム Session
13:00   14:30	K404	<b>対人関係 Interpersonal Relations</b> 司会：川内 規会（青森県立保健大学） 1. 認知症高齢者のコミュニケーション 河野 淳子（龍谷大学） 2. 医師と患者のコミュニケーションプロセスおよび成果の認識ギャップ — 医師と医療消費者の結合データによる実証分析 — 塚原 康博（明治大学） 3. 子育て期の父母の家庭内コミュニケーション意識 岡戸 浩子（名城大学） 天童 睦子（名城大学）
14:40   15:10	511 大講義室	<b>開会式 Opening Ceremony</b> 開会の辞：近江 誠（南山短期大学 日本コミュニケーション学会 会長） 挨拶：水谷 修（名古屋外国語大学 学長）
15:10   15:40	511 大講義室	<b>総会 General Assembly</b>
15:50   16:50	511 大講義室	<b>基調講演 Keynote Address</b> <b>パフォーマンス研究の現在</b> <b>— パフォーマティヴィティ・身体・認知 —</b> 内野 儀（東京大学大学院総合文化研究科・表象文化論） 司会：板場 良久（獨協大学）
17:00   18:30	511 大講義室	<b>シンポジウム Symposium</b> <b>コミュニケーション学と演劇</b> 司会：板場 良久（獨協大学） シンポジスト：内野 儀（東京大学） 近江 誠（南山短期大学） 師岡 淳也（神奈川大学）
18:40   20:30	コミュニ ケーション プラザ 交流ホール	<b>懇親会 Reception</b> 当日の申し込みも可能です（10名程度）。受付にて、お申し込み下さい。（¥5,000）

7月6日（日） Sunday July 6

受付 9:00～ Registration commencing at 9:00

時間	教室	プログラム Session
9:00   10:30	K402	<b>セッション 3</b> <b>パネル 2 コミュニケーション教育 Division of Communication Education</b> <b>「大学におけるコミュニケーション教育はどうあるべきか」</b> 司会：松本 茂（立教大学） 1. 医療福祉系の大学におけるコミュニケーション教育はどうあるべきか 五十嵐 紀子（新潟医療福祉大学） 2. 経営系学部におけるコミュニケーション教育はどうあるべきか 松本 茂（立教大学） 3. 医療系学部におけるコミュニケーション教育はどうあるべきか 三原 祥子（東京女子医科大学） 4. 教育養成系大学におけるコミュニケーション教育はどうあるべきか 吉武 正樹（福岡教育大学）





時間	教室	プログラム Session
13:00   14:30	K403	<p><b>(脱)国家 Post-Nation</b> 司会：桜木 俊行 (Gustavus Adolphus College)</p> <p>1. Para-National Communication with Transnational Identity Eriko Hayashi (Gifu University)</p> <p>2. 「言語の少数者」としての日本人 — 非日本語採用論の位置づけのために — 臼井 裕之 (財団法人日本エスぺラント学会)</p> <p>3. バラク・オバマが提示する多文化共生社会像 — 2008年米国大統領候補者指名争いにおける演説を中心とした考察 — 花木 亨 (南山大学)</p>
	K404	<p><b>「異」文化と「外国」人 Intercultural Relations</b> 司会：鄭 偉 (神田外語大学)</p> <p>1. 中学生の外国人に対する態度意識と影響要因 — 一地域における実証的事例調査 — 安達 理恵 (名古屋外国語大学)</p> <p>2. 日本の大学生に対する海外短期語学研修の教育的効果 — グラウンデッド・セオリー・アプローチに基づく一考察 — 工藤 和宏 (獨協大学)</p> <p>3. Testing the Interactive Acculturation Model in Japan: American-Japanese Coworker Relations Adam Komisarof (Reitaku University)</p>
14:40   16:10	K508	<p><b>リーダーズ シアター Readers Theater</b> 司会：中西 満貴典 (岐阜市立女子短期大学) パネリスト：大川 道代 (青山学院大学) 近江 誠 (南山短期大学) デモンストレーター：大学生 (南山短期大学、青山学院大学、名古屋外国語大学)</p>
	K403	<p><b>セッション 5 テクノロジーとメディア Technology &amp; Media</b> 司会：松本 健太郎 (中部大学)</p> <p>1. 高度対話型社会の功罪 — 自殺サイトにおける自殺予告 — 小坂 貴志 (立教大学)</p> <p>2. The Interrelationships among Information Communication Technologies, People, and a Society: Alternative Perspective for the Next Decade Arata Miyazaki (Wayne State University)</p> <p>3. ラカン「欲望のグラフ」から見たコミュニケーション教育の本質 北本 晃治 (帝塚山大学)</p>
	K404	<p><b>教育現場 Teaching in Contexts</b> 司会：本郷 好和 (国際基督教大学)</p> <p>1. Teaching Gender-neutral Language in EFL Classrooms Chiyo Myojin (Kochi University of Technology)</p> <p>2. コミュニケーション活動を主眼とした共同学習 村井 佳世子 (日本大学)</p> <p>3. 「きくこと」の力 — 大学における「聞く」「聴く」「訊く」の3つの「きく力」を養う取り組み — 穂田 昭子 (桜美林大学)</p>
16:20   16:30		<p><b>閉会式 Closing Ceremony</b></p>